

【千年学区】（仮称）千年小中一貫教育校（義務教育学校）に係る地域説明会 概要

【日時】 2018年（平成30年）11月29日（木） 19:30～21:00

【場所】 千年小学校 体育館

【出席】 参加者 48人（傍聴1人を含む。）

行政 15人（教育次長，管理部長，学校教育部長 他）

【内容】 1 開会

2 あいさつ（教育次長）

3 （仮称）千年小中一貫教育校（義務教育学校）の整備について説明

4 意見交換

5 閉会

あいさつ

（教育次長）

昨年度，義務教育学校として，（仮称）千年小中一貫教育校を整備する計画を策定し，10月に地域説明会を開催した。説明会では，この義務教育学校がどのような学校になるのか，もっと具体的に説明してほしいという意見や，施設整備に関して，特に防災面に対する心配の声があった。これまでの間，いただいた意見を踏まえ，義務教育学校の整備内容について検討を重ねた。

本日は，教育内容と施設整備の考え方について説明し，皆さんからご意見をいただきたい。開校予定は，2022年4月を考えている。皆さんに，義務教育学校についてしっかり理解いただき，この義務教育学校を，地域，福山，そして日本に誇れる学校にしていきたい。

意見交換（出席者から出された意見等）

学校再編・再編後の学校に関すること

○地域や保護者の同意のもと，再編を進めるのではなかったのか。

→（回答）

2022年4月の開校を目ざし，この義務教育学校を作っていきたいと考えている。それに向けて，皆さんが不安や疑問に思っていることを，意見・質問として出していただき，教育委員会の考え方や具体的方策を答えていくなかで，理解を得ていきたい。施設整備についても，設計等の具体的な内容に対して意見をいただき，皆さんと一緒に学校づくりをしていきたい。

10年・20年先の沼隈地域，内海地域の学校の在り方を検討した結果，義務教育学校の計画を進めていくことが，子どもたちにとって最善の策だと思っている。出来るだけ具体的な内容を示しながら意見交換を重ね，お互いに理解を深めていきたい。

○他地域でも説明会を開催し、皆さん再編に納得しているのか。

→ (回答)

地域説明会は、12月1日に能登原地域で開催する。他地域も、地域や保護者の役員の方と相談をしながら進めており、地域によって進捗状況は違うが、開校に向けて同じように進めていく考えである。

○小中一貫ならではの教育内容はあるのか。

→ (回答)

総合的な学習の時間であれば、中期(5年～7年)に自分で課題を見つけ、自分が調査したい課題を考え、後期(8・9年生)に学びをつなげ、探求的な学習に取り組む。福山市は、小中一貫教育の中で、各校様々な取組を行っている。そうした取組も活かしながら、義務教育9年間で学習していく内容をより具体的にしていく。

○義務教育学校が必要かという議論をするべき。今のままではなぜいけないのか。

→ (回答)

一人ひとりがじっくりと考え、何度もチャレンジしていくことを、どこの学校でも進めていこうとしている。義務教育学校では、子どもたちが一人でじっくり考え、何度もチャレンジする学習の場と、たくさんの人数で一緒に考え、何かをやり遂げる学習というように、様々な学習を学校が提供し、子どもたちが色んな学び方で、自分の学ぶ意欲を高めていたり、学び続ける力を付けていたりしていきたい。福山市が進めている小中一貫教育は、小学校と中学校が連携し、先生たちもお互いに授業を見合い、中学校区の9年間でどんな子どもを育てていくかを共通の目標にして取り組んでいる。義務教育学校は、先生たちの日常的な交流や乗り入れ授業も可能となり、これまでの小中一貫教育をさらに進めていくことができる。

今までの施設一体型小中一貫教育校で見られた学校制度上の問題から、小中一貫教育を進めている全国の自治体からの要望を受け、より柔軟に、9年間を通した教育ができる義務教育学校を、文部科学省が制度化したという経過がある。

千年の義務教育学校は、教育上の効果と沼隈地域・内海地域の子どもの人数や学校施設のこと踏まえ、教育環境も向上すると考え計画した。計画の中身について、皆さんと意見交換しながら、ご理解をいただきたい。

○小学校がなくなれば、地域の中心的な存在がなくなる。

→ (回答)

地域から小学校がなくなる影響について、心配もあると思うが、今の子どもたちが大人になった時にどのような力が求められるのかを考え、その力を育むことのできる教育内容や学校施設・環境を作っていきたい。再編後のまちづくりについては、地域活性化の担当部署が中心となり、地域と行政が継続的に話し合う場を設け、一緒に検討し、取り組んでいく。

○校区が広がり、放課後の行動範囲も広がることへの対策は。

→ (回答)

放課後、スクールバスで帰宅した後に、前期課程の子どもたちが自転車で他地域へ行って遊ぶことは難しいと思っている。休憩時間を長くするなど、学校生活の中で、遊ぶ時間を確保することは可能であり、スクールバスの発車時刻まで、遊びの時間を作ることも考えている。

学校においては、「生活のきまり」などにより、外出するときは、交通ルールを守ることや「行き先」「帰る時間」を家の人に伝えることはもちろん、子どもだけで行くことのできる範囲を定め、守ることについても指導していく。子どもたちの自律を促し、自分で自覚して行動できるよう、家庭においても外で遊ぶときのルールを決め、守るよう、声をかけてもらいたい。

○学校行事は、前期課程・後期課程合同か、別々か。

→ (回答)

各学校で行っている行事も踏まえ、子どもたちにどのような力を付けたいのかを明確にし、この行事は継承し実施する、この行事は学年を決めて実施するといったように、学校としっかり協議しながら決めていく。

行事は全校合同で行うのか、別々で行うのかということは、行事によって変わってくると思う。例えば、運動会を合同で開催することは、1年生と9年生では体力的なことも違うため、難しいかもしれない。行事によって合同で行ったり、学年で行ったり、前期課程と後期課程別々で行ったりといった具体は、これから検討していく。

教育内容に関すること

○「4・3・2制」とは何か。

→ (回答)

福山市は小中一貫教育に取り組んでいるが、子どもたちの発達段階を踏まえ、どのような学習を大事にしていくかを考え、小1～小4を前期、小5～中1を中期、中2・中3を後期の「4・3・2」に区分し、様々な学びをつなげたり、小学校と中学校とが連携したりしながら、子どもたちの学びや成長を見ていっている。9学年を3区分した「4・3・2」の各段階で力を付けていくことに取り組んでいる。

○ふるさと学習をするために、まずは教員が地域のことを知るべき。

○ふるさと学習は、再編する地域も含めてどのように行うのか。

→ (回答)

それぞれの地域が大切にしてきたことを子どもたちが受け継ぎ、地域に愛着と誇りを持ち、自信を持って自分の道を切り開いていくことができる子どもを育てていきたいという思いから、福山市ではふるさと学習に取り組んでいる。

教職員は県内各地から来るため、赴任した地域のことを知らない教員がいるのは事実である。また、5、6年周期で転勤もあるため、行った先々の地域の方々の協力を得ながら、

教職員も子どもと一緒に勉強していくことで、それぞれの地域の宝や思いを引き継いでいくことが必要だと思っている。

教職員も、福山のことやそれぞれの地域のことを学んでいかななくてはならない。ふるさと学習に取り組み始めた時は、そのための教職員研修を行っていたが、今はそれよりも、日常的に子どもたちと地域に出向き、一緒に勉強していく機会をたくさん作っていく取組をしている。

再編後は校区が広がり、学習資源がより多様化する。各地域の思いや伝統・文化を引き継いでいくように考えており、ふるさと学習の具体的な内容は、各学校と教育委員会で、これからじっくりと考えていく。

施設整備に関すること

○近隣家屋への防音対策と目隠しを必ずしてほしい。

→ (回答)

施設整備を具体的に進めていくなかで、相談しながら対応していく。

○設備面に関して、熱中症対策はされているのか。

→ (回答)

温暖化の影響もあり、市立小中学校の普通教室と音楽室、理科室、そして中学校は、美術室も、2019年度末までにエアコンを設置していく計画である。この義務教育学校にも設置する。

○既存校舎にもエアコンを設置するのか。

→ (回答)

既存の千年小学校や千年中学校にも、来年度中にエアコンを設置し、2020年度からは使用できる状況にしていく考えである。

○4階建の校舎を常に昇り降りするのは負担。エレベーターを設置し、昇り降りが負担のないようにしてほしい。

→ (回答)

校舎のレイアウトが決定していないが、4階建の校舎の中心となる2階に職員室を配置し、教職員が、職員室内の階段で1階にも容易に行き来ができ、目が届くような案も考えている。

エレベーターは設置する予定である。子どもたちは、基本、階段で移動するが、足が不自由な方や高齢の来校者、児童生徒が足を骨折した場合などは、エレベーターを利用することになる。

○用地買収や建物の設計は、どの程度進んでいるのか。

→ (回答)

施設整備に向けて拡張用地の取得を進めており、地権者の方に理解をいただき、ほぼ契約が済んでいる。建物については基本設計を行い、地域や保護者の皆さんに学校のイメージを説明し、意見を伺いながら、一緒に学校づくりをしていきたい。

○あえて新設校を浸水区域に建てるのか。他の場所は検討したのか。

→ (回答)

沼隈・内海地域の5小2中の子どもたちが通うのに、一番立地的に便利な場所ということで、千年中学校の位置を選定した。

約770人という再編後の児童生徒数を考えると、学校敷地が約3万平方メートル必要だろうということで、他の候補地も検討した。千年小学校南東方向の山にある場所も検討したが、この近辺の山林は地盤が岩盤であることがわかり、山地を切り開いて整備すると、擁壁を築く必要もあり、3万平方メートルの土地の確保が難しいということで、無理だという判断をした。

千年中学校の位置に建設するにあたり、防災面での施設整備の考え方を本日説明した。災害時に避難に時間を要する方もおり、避難場所の位置関係からみても、千年中学校の位置が良いという判断をしている。浸水するまで時間はあるが、学校に避難される場合には、上層階へ避難し、身の安全を確保していただきたいと考えている。

○低学年の遊び場が狭く、自転車通学の生徒が通る場所と重なるのではないか。

→ (回答)

低学年の遊び場の広さ、自転車置場の整備場所は、意見を踏まえ、検討する。